



2020年3月10日発行
 特定非営利活動法人
 盛岡YMCA
 〒020-0015
 盛岡市本町通 3-1-1
 Tel 019-623-1575
 Fax 019-623-1579
 www.moriokaymca.org
 発行人/ 濱塚 有史
 編集/ 本部事務局

YMCA News

3



「YMCAの思い出」

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

16 平和と公正を
すべての人に



私がYMCAに初めて来たのは、平成26年の時でした。その時は、まだ私は、1年生でした。始めの頃は、何も分からなくて、きんちょうでいっぱいでした。だれにも話しかけられなくてそわそわしていた時リーダー達が話しかけてくれて、はげましてもらい、勇気をもらいました。

そして、Yでの、新しい友達ができました。あの時のリーダーがいなかったら、私はどうなっていたのかと今も思います。初めてYに来た時を思い出し、学校でもたくさんの友達ができました。リーダー達のおかげです。

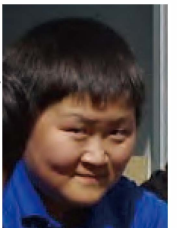
今では、ごーりき、白くまなどのリーダーがいなくなって、ソニックや黒くまなどのあたらしいリーダーからも、色々なことを、学びました。今まで、本当にありがとうございました。それから、いつも遊んでくれた友達と公園に行ったり、サッカーをしたり、つりをしたり本を読んだり、宿題したり、

野球をしたり、絵を描いたり、ドッチボールをしたり、城あとでどうそう中をしたり雪合戦をしたり、映画をみたり、ケンカをしておこられたり、笑ったり泣いたり書ききれないぐらいいろいろな思い出があります。

私がいた時から親しい友達が、年々一人、二人、三人とふえてきました。毎年新しい友達ができて、うれしかったです。六年間、友達との関係を支えてくれたりいつも優しく、時には厳しく教えてくれたYMCAには、感謝の気持ちでいっぱいです。

六年間、私を育ててくれて、ありがとうございました。

ぷらいむ・たいむ本町校メンバー 小学校6年
佐藤想純



盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



～ワカサギ釣りへ出かけよう♪～

1月の野外活動は1月26日(日)岩洞湖に行き、ワカサギ釣りをしてきました。ミーティングでは、「昨年全然釣れなかったから、今年こそはたくさん釣りたい!」と、リーダーたちみんなで意気込んでいました。熱湯を穴に注いだら釣れるらしい、虫を半分に切って汁を出したら良いなどワカサギ釣りの秘訣を調べ挑んだ当日。去年よりはたくさん釣れたものの、全体では数匹しか釣れませんでした。午前で中々釣れなかったため、子どもたちは午後のフリータイムで、雪遊びに行くだろうなと思っていました。しかし、ほとんどの子が午後もワカサギ釣りをしていました。



午後子どもたちがワカサギ釣りをしている様子を見て、たとえ釣れなくても釣りの楽しさを、釣れたときの喜びだけでなく、道具や釣り方、釣れるのを待っている時間など、リーダーそれぞれのやり方で伝えられたことが目に見えて分かったので嬉しかったです。

子どもが自分で釣ったワカサギを保護者の方に見せながら、「大きくなったら、お友達に見せるって約束したから育てる!」と言っていました。保護者の方は、困った様子で、「でも帰ったらてんぶらにしようね。」と説得をしていましたが、断られてしまい、その会話を聞いて、ワカサギ釣りが食育へとつながっているのだと感じました。

現代の子どもたちは、昔と比べ、生き物に触れ合う機会が少なくなっ
てしまい、スーパーマーケットに置いているような切られた状態の魚しか見ることがないため、魚の切り身が海を泳いでいると思っている子どももいるそうです。そんな時代の中で、子どもが生き物の姿を自分の目で見て知り、実際に自分で釣ってみることで、命の尊さについて知ることができたその瞬間に立ち会えた活動になりました。



岩手県立大学2年
小田愛海(クララリーダー)

～雪ん子キャンプ♪～

2月23～24日、岩手山青少年交流の家で2月野外活動の雪ん子キャンプを行いました。今回は一面に広がる雪の世界に子ども達が全力かつパワフルに飛び込んでいき、冬を100%満喫する活動となりました。バスのプログラムで「幸せなら手を叩こう」ゲームやジェスチャーゲームなどをした事によって、子どもたちの緊張がほぐれ、子どもたち1人1人が、少しずつ自分の個性を出し始めていたように感じます。

会場に到着した後は、雪玉当てゲームや雪の中の宝探しをしました。雪玉当てゲームでは、グループによってどうやったら雪玉を多く当てられるかを考え、色々な方法を試したり、ひたすら一所懸命雪玉を投げ続けていたりしていました。その中で一際目立っていたのが、特大サイズの雪玉を作って、雪玉を当てるための的にグループのメンバー全員で、その雪玉を思いっきり叩きつけていたことです。さらに宝探しでは、雪の中に埋まっている財宝(カプセル)を、子ども全員が1つでも多くゲットしようと目を輝かせながら雪の中を探索し走り回っていました。そしてびっくりしたのが、そのプログラムの中で一位をとったグループが、女の子のグループだったことです。ひたすらに駆け回る女の子たちよりも、堅実にコツコツとポイントを稼いでいた女の子達が、優勝もぎ取ったのが面白いなあと感じました。ナイトプログラムで館内ハイク兼おもしろ雪だるま探索ツアーをした後、部屋に帰って、就寝時間まで枕投げをして最後まではしゃぎました。2日目のフリータイムでは、スノーチューブで雪の斜面を滑ったり、こだわりのかまくらを作ったりなど、それぞれが自分のやりたい雪遊びを、全力で満喫していました。雪遊びを通して、子ども1人1人が輝いていたと思います。中には「今までの野外活動の中で一番楽しかった!」と言っていた子もいて、私自身も手応えと充実さを感じました。雪という遊びの宝庫をどのように活用して、子ども達と関わっていくかを考えていく上で、私が重視したことは、子ども達が何をしたいのかではなく、私自身が子ども達と何をしたいのかという事です。自分が楽しいと思う事をたくさん用意し、何度も子ども達に提供し続ける事が自分のやれる事なのではないかと思い、その結果、自分の楽しいを子ども達と共有し、非常に充実した時間を過ごす事が出来ました。



キャンプ1つ1つが子どもだけではなく、私を成長させてくれるものだという事に今回の活動を通して気づく事が出来ました。これからも私の全身全霊をかけて子ども達と関わっていきたくと思います。

岩手県立大学1年
海和将太(あんこリーダー)

2月サンデースクール～◎◎パイを作ろう♪～

こんにちは!2月サンデースクールでメインを務めました、にぼしです。今回は、「○○パイをつくろう♪!」ということで、子ども20人、リーダー・スタッフ13人で、2月9日(日)仁王地区活動センターを会場に、アップルパイをベースに、グループごとに個性的なパイをつくる事が出来ました。

まず、リンゴを切って煮リンゴづくり。リーダーと一緒に包丁を上手に使用して切ったり、クッキー型を使って星形やハート形などのかわいい形にしたりなど、工夫をしながら楽しみました。リンゴを煮ているときは、リンゴの甘い香りとレモンのさわやかな香りに「いいにおい!」「おいしそう!」との声が上がりました。次は、パイ生地を麺棒でのばしてパイの成型です。一生懸命生地をのばし、クッキー型で型抜きを行い、煮たリンゴを乗せ、グループのパイをつくり上げる中で、グループで一つのパイをつくらせたり、自分で一つのパイをつくらせたりと、思い思いのパイをつくり楽しむことが出来ました。パイを焼いている間は、みんな「焼きあがるのが待ち遠しい!!早く食べたい!」という思いを募らせていました。焼きあがったパイをリーダーが持ってくると、子どもたちはみんな目を輝かせていました。



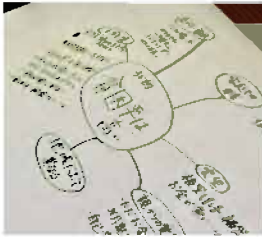
岩手大学2年 榎原夢花(にぼしリーダー)

みんなでパイを分け、アイスをトッピングして、食事の中の会話も盛り上がり、楽しみながら美味しく食べることが出来ました。みんなでおいしいアップルパイをつくり、その中でグループや一人一人の個性が光るパイをつくる事が出来ました。低学年の子たちは、リーダーや高学年の子の力を借りつつも、自分でパイづくりを一生懸命頑張りました。高学年の子たちは、グループを引っ張って、時に低学年の子を支えながらパイづくりを楽しみました。

これからもサンデースクールを、どの学年の子たちも楽しめる、輝ける活動にしていきたいと思っています。3月サンデースクールもご参加お待ちしております!



私は栃木県で2月15、16日に行われた北東部ユース・リーダーズ・アクト2020に参加しました。今回私が参加しようと思ったのは、リーダーとして活動を重ねていく中で自分の強みや子供達との接し方等について悩むことが多く、解決の糸口を見つけたかったからです。そのため、盛岡を飛び出し、他のYMCAの方々と一緒に初めて交流するこの機会ではとにかく人と関わり自分の視野を広げることが目標に臨みました。1日目は交流会とディスカッション、2日目はエンジョイドッジボール大会の運営を行いました。その2日間を通し、特に印象に残っていることが1日目のディスカッションで話し合った「子供の貧困」についてです。



貧困といっても金銭面といった「見える貧困」とつながりや体験等の欠如という「見えない貧困」があることを知り、リーダーだけではなく、スタッフやワイズの方々も交えて話し合うことで大変勉強になりました。また、以前行われたリーダートレーニングで「人が喜ぶことをする体験」を子供もリーダーもたくさんしてほしいと教えていただいたからこそ、私の中では「見えない貧困」という言葉が強く印象に残っており、その中で子供達に必要な体験とは何かについてとても考えさせられました。私はYMCAの強みは「人」だと思います。私自身、YMCAで活動を始めから、沢山の子どもや保護者の方々、リーダー、スタッフ、ワイズの方々に関わり、相手のことを知ったり、反対に自分を知って



もらったりを繰り返し、関係を築くことができました。今回のリーダーズ・アクトでも知る、知ってもらうを繰り返すことで、知ることができた、知ってもらえた時の喜びを改めて体験することができました。だからこそ、様々な活動に参加し、子ども達を始めとした多くの人と出会う時には、お互いを知ることが大切にし、相手を知っていく中で「これが私なんだ」と自分にも気付き、共に成長できるよう、これからも活動に励んでいきたいです。

盛岡大学文学部児童教育学科2年 佐藤彩苗(ほや)



全国まちづくり若者サミット



2月1日、2日に東京都の日本青年館で行われた全国まちづくり若者サミットに参加し、宮古の被災地復興支援活動についての発表と、全国各地で地域活動を行っている若者とのディスカッションを行いました。

宮古での活動の様子や、私たちリーダーが被災地支援に行く理由について、考えていることを話しました。それは、被災地支援という名目ではあるけれど、私たちは宮古が大好きだから、宮古の子どもたちに会いたいから宮古に行く、ということです。力んでではなく、自然に会うことが楽しみのようになったことは、良いことなのではないかと思えます。これを不謹慎と言う人もいるかもしれないけど、私たち自身がまず楽しむことも支える方法の一つなのではないかと考えています。

大学のない町でのまちおこしをする団体に、「若い人の考えやパワーがあって羨ましい。」と言われました。資金についてもバックアップして下さる人がいること、YMCAという大きな母体があることなどの話を受け、改めて自分が恵まれた環境で活動できていることに気付かされました。

様々な団体が思っていることをぶつけ合い、時にはよく理解できない場面に遭遇したり、簡単にはアドバイスができないくらい壁にぶち当たったりする人もいました。おむすびリーダーはイベント終了後の帰り道、「どうすればいいんだろう・・・。」と様々な人々の思いと大きな荷物を抱えたまま新幹線に乗り込みました。私も、答えが出ない、例えて言うなら「消化不良」な状況に困惑しました。でも、答えは出なくても良いのかもしれませんが、なぜなら、今回の会が答え合わせの会ではないからです。フィールドはそれぞれ違って、私たちと同じように悩みをもっていることに気付くことができ、「自分だけじゃないんだ。」ということが原動力になっていくのだと思いました。

まずは自分の意見をしっかりもって、発信していきたいです。参加のチャンスをいただき、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

岩手大学教育学部4年 齊藤七彩(トラックリーダー)



～ピンクシャツデー特別企画～ 「今を楽しむには」



2月23日(日)盛岡スコール高校を会場に、ピンクシャツデー特別企画「今を楽しむには」が行われました。今年で3回目を迎える企画に、初めて参加しました。当日は、小学生、中学生、大学生ボランティアリーダー、ユース委員、YMCA職員の総勢31名の参加となりました。

参加した中学生は、始めは表情に固さが見られましたが、体を動かしていく中で次第にコミュニケーションが生まれ、生き生きとした表情に変わっていききました。タグラグビーは、自分だけの力ではボールを前に進めていくことが難しく、仲間の協力が必要不可欠です。

最初は連携ミスがあったり、上手にかみ合わなかったりしましたが、試合が進むにつれて会話も増え、パスが通り始めるようになりました。会話の少なかったチームでも、良いプレーに対して拍手をしたり、作戦の声をかけたりなど、コミュニケーションも増えていきました。自分がどう動けばいいのかという事ばかり考えるのではなく、仲間は次にどう動くのでも考えながら動いていくことや、仲間との会話を増やすことでプレーにつながりが出てきたように感じました。

今回の企画の目的は、スポーツによる自然なコミュニケーションを通して、人とコミュニケーションをとる楽しさ、大切さを知ってもらうことでした。今を楽しむ方法としては一人で楽しむ方法もあれば、多くの人と一緒に楽しさを共有する方法もあると思います。そして、一人の楽しさを、コミュニケーションを通じて広げていくことで、楽しさが何倍にも大きくなっていくように思います。人とコミュニケーションをとることが得意な人でなくても、一緒にスポーツをしたり、体を動かしたりする中で自然とコミュニケーションが生まれ、気づいたら仲良くなっていることは多くあります。

私自身がそうでした。人とのコミュニケーションによって生まれる楽しさが多くあるのだと再確認でき、多くの人と一緒に楽しむことができた1日でした。

岩手大学 3年 前田隼輔(ガルベス)





※ポジティブネット①⑥

チョコエッグ

チョコエッグは卵の形をしたプラスチックの容器をチョコレートでコーティングした食玩だ。容器の中には、フィギアが入っている。今でもスーパーやコンビニのお菓子のコーナーには置かれていると思う。15年前、僕はこれにメチャクチャはまっていた。お目当ては「日本の動物シリーズ」に中にある淡水魚「オイカワ」である。昔は中津川でもよく釣れた。体表が虹色に輝くととてもきれいな魚である。10個単位で大人買いをするのだがこれがなかなか当たらない。学生リーダーたちにも協力を仰いで、やっと当たったオイカワは川の中でいかにも泳いでいるような見事な出来映えだった。

フィギアという海洋堂。もともとは、プラモデル会社だったのだが、いまではこの世界では知らない人はない有名な製作会社だ。

全国から腕自慢の人間があつまり、職人として精密な型を作り出す。その中でも第一人者の人がテレビの取材でこう語っていた。「完璧に、あまりにそっくりに作り上げるとかえって現実感がなくなるのです。」

僕たちは本物を本物のままとしではなく、自分の好み、経験、価値観といったいくつものフィルターを通して見ているのだ。海洋堂の職人さんたちは、長い経験の中からそこも想定して僕たちが満足するフィギアを作成しているというわけだ。自分のフィルターを通さずありのままをありのままに受け入れることはとても難しいことだと思った。

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

(コリント信徒への手紙Ⅱ 4章18節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

インドでビリケン・マックスが考えた 最終回



去年の今頃はインドに居たと考えると時間が経つのは早いなあと感じています。インド・スタディキャンプが終わってから、YMCAでは新入生を迎え、子どもたちとの活動には「最後の」という言葉が付くようになり、就職試験を乗り越え... などなど目まぐるしい1年を過ごしました。その中で、インドでの体験が、将来を決めるこの1年に大きな影響を与えました。

インドでは未だにカースト制度が存在し、貧しい家に生まれた子どもは貧しいままで、学費が安く教育環境が決して良いとは言えない学校へ通っています。さらに、奨学金制度も充実しているとは言えません。最後の滞在地、チェンナイのセントポニファス・アンバハムでは、夜になると子どもたちが、施設長であるスレッシュさんの家の前に集まります。自分たちが生活する建物には電気が無く、宿題ができないためです。そこで子どもたちは「ダンサー」、「先生」、「医者」などの夢を語っていました。

彼らの状況では高度な教育を受け受けることは難しく、先生や医者などの職業につくのは不可能に近い。私は瞬間的にそう思ってしまいました。それと同時に、それでも夢に向かって頑張りたいということ、この孤児院があるから夢を語れるということ、そんな存在に私もなりたいたいということ、自分の活動がまだまだちっぽけだったということ、そもそも自分の夢って何だろうということを考えさせられました。そう考えたとき、自分の夢は子どもたちと関わる仕事がしたいということ、セントポニファス・アンバハムのような大きな力

はなくても、目の前の子どもたちのためになることをしていきたいということを考えました。3月にはYMCAを卒業しますが、岩手の子どもたちと向き合っていくことは変わりません。子どもたちや周りの人を大切にしてこれからも頑張っていきます。

たくさんのことを考えさせてくれたインド・スタディキャンプに行くことができ本当によかったです。関係者の皆様、ご寄付を頂いた皆様、本当にありがとうございました。また、これまでYMCAニュース、インドコラムを読んでくださった皆様、1年間ありがとうございました。これからも私たちを見守ってくだされば嬉しいです!

岩手大学4年 東彩由海(マックスリーダー)



表紙の写真から



宮古サッカースクールでの1枚。男女関係なく仲良く声を掛け合いながら、毎週サッカーを楽しんでいます。いじめがなくなりますように。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ  : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook  : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>

(2020年2月28日現在敬称略)

● 雑談会員

伊藤真太郎、伊藤愛美、晴山浩輔、工藤悦子、今野聖子、花田瞳、二戸真文、橋丹谷三代、中島敬泰、家村知佳、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、増田隆川坂、保宏、伊藤信彦、大関博、南原昌哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、高瀬裕之、遠藤昌樹、尾張幸久、飯島隆輔、林辰也、魚住恵、今松桂子、熊谷大樹、森山日菜乃、森山幹大、光永尚生、北田仁則、北田ユウ子、東森聡、人見晃弘、尾形裕一、山口貴伸、井上修三、井上優子、井上浩太郎、長岡正彦、高橋友恵、水田賢次、澤田優美、平泉幸子、佐々木理香、藤原祐三、浅沼慧、浅沼美希、若井淳、及川茂夫、阿部深雪、上中優奈、植田一茂、松尾聡子、武田理恵子、佐藤洋一、菊地弘生、重石佳司、Souda Eiji、熊谷咲希、日語教会、滝川佐渡子、浅沼誠久、高橋奈菜、水野暢夫、濱塚秋二、濱塚れい子、濱塚有史、濱塚真美、佐藤翔、古澤伸、向平悟、ちひろ、小川嘉文、濱塚直樹、藤子、小川明佑、廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、野澤朋華、魚住英昭、尾張幸久、大久保里美、中村圭一、菅原歩、武田悠、釜澤亮、齊藤優太、布引和生、ガブリック株、角谷晋次、神田橋慧一、中原真澄、小林茂元、齋藤之彦、清水治彦、小林明彦、大塚英彦、深澤秀男、深澤多紀子

● 寄附金

晴山浩輔、工藤悦子、今野聖子、家村知佳、南原昌哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、人見晃弘、及川茂夫、菊地弘生、日語教会、カイアリンク株、角谷晋次、武田理恵子